

特定非営利活動法人

柔道教育ソリダリティー

第5回講演録「柔道と私」

講師 A・S・ラフリン

(プーチン大統領の柔道の師匠
ロシア柔道連盟副会長)

通訳 浅井信幸 ロシア交流担当

2008年11月19日

於 霞が関ビル33階 東海大学校友会館



ラフリン氏

みなさん、こんにちは。話を始める前にまず、私たちの来日に尽力してくださった日本の外務省、日露青年交流センター、東海大学の指導者のみなさま、柔道教育ソリダリティーの方々に、感謝の意を申し上げたいと存じます。

今や柔道は世界中に広まり、オリンピック種目の中でも、サッカーに次いでメジャーな競技だと言えるでしょう。柔道の競技人口は、約二百万人に及びます。しかし、昨今の柔道は、フリースタイルのレスリングやプロレスリングに接近しつつあります。嘉納治五郎先生が広めた伝統的な日本の柔道は今、形を変えようとしているのです。なぜ、このようなことが起きたのでしょうか。

ロシアのIJF副会長であるソルベイチュクや、IJF会長であるビゼールは、日本の柔道に勝つためのルール改正を行ってきました。その結果、日本人選手が力を十分に発揮できず苦戦している一方で、ヨーロッパ選手の見苦しい柔道が勝利するという現象が起きています。このようなルールや戦術の移行は、柔道の正しい発展とは言えません。

約一年前に開催されたブラジルの世界選手権で、私は山下泰裕先生とお話する機会を得ました。私たちは「強く美しい柔道に回帰したい。また更に多くの人々が、柔道の稽古に参加できるようにしたい」という点で、意見が一致しています。ロシアの若いコーチたちが日本に来たのは、原点である日本の柔道を直に学ぶためです。オリジナルは常に、コピーよりも優れているものです。

柔道はただのスポーツではなく、人生哲学そのものです。私たちの大統領であったウラジミール・プーチンには信仰があったために、柔道は親しみやすいものだったのでしょうか。人が人であるために、目上の人を敬い、どのような相手も人として尊敬し、常に善良であること。キリスト教、仏教など、多くの宗教に見られる信仰の核心を、柔道のフィロソフィは内包しています。だからこそ「柔道を学ぶことで、世界の人々と正しく交流することが可能になる」と、彼は言うのです。

日本で柔道を学び、それをロシアに持ち帰ることで、私たちは日本のみなさまとともに、嘉納治五郎先生が示した柔道に立ち戻りたいのです。ここには大きな政治的権力が働いています。今のビデオを見てみなさんは、私たちの友情が新たに深まったことを確信されたことでしょうか。

弱い相手といくら稽古をしても、上達することはできません。柔道家はつねに、自分より強い相手と稽古をし、戦いたいという向上心に燃えています。また私たちは、戦う相手を敵ではなく、パートナーとして捉えたいと考えられています。畳の上では、勝負のために全力を尽くしますが、決着がついてしまえば、勝敗はそれほど重要な意味を持ちません。大切なのは、そこから生

まれてくる友情であり、そのために私たちは何度となく日本に足を運んでいるのです。

日本で柔道を学ぶのは常に楽しく、また日本のみなさんがロシアで指導してくださることも、大変嬉しいことです。正しい柔道が発展し再び主流となるために、今後ともみなさまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

司会

ありがとうございます。試合の結果ばかり重視しがちな私たち日本人にとって考えさせられる、柔道の本質に迫ったお話でした。

それではここで話をさらに深めていくために、質疑応答に入りたいと思います。ご質問のある方、お願いいたします。

A氏

柔道の神髄についての貴重なお話、ありがとうございます。

現在の柔道は教育柔道と競技柔道の二つに分かれると、私は思います。競技柔道において、特にオリンピックの重要性が高い試合では、そのスタイルがレスリングのように崩れてしまっているのが現状ですが、教育柔道は本来の正しい姿であってほし

いと願っています。そのためにも、教育柔道と競技柔道をきちんと分けて世界中に広めていきたいというのが、私の考えです。

ラフリン氏

コーチは技を教えるだけではなく、子どもたちを育成していく教育者であることが重要だと思います。チャンピオンを作る前に、まず人間をつくらなければならぬからです。そのためには、健康で丈夫な体が必要不可欠でしょう。

ロシアには、「いくつになっても、女性を愛することはできる」という歌があります。同様に、年齢に関係なく自分に合わせてできるのが、柔道の素晴らしいところだと思います。

A氏

日本には「勝つと思うな 思えば負けよ 負けてもともと この胸に秘めるものこそ大切だ」という柔道の歌があります。稽古を積み、礼を学び、社会に出たときに恥ずかしくない人格形成が行われることが、柔道の本質だと思います。

ラフリン氏

私は「畳の上では何も考えるな。上がる前にこそ、よく考えなさい」とい

う話をよくします。ヘミングウェイがスペインでボクシングの世界チャンピオンと会ったときに「どのようにして最後の相手に勝ったのか」と聞いたところ、「相手は賢いがために、考えすぎたようだ。つまり、彼が考えている間に勝ったのだよ」と答えたそうです。

司会

ありがとうございます。では次の方、お願いいたします。

小林氏

小林と申します。よろしくお願いたします。

エリツイン氏が大統領の時代は、その影響でテニスが盛んだったようですが、プーチン氏が大統領であるということが、ロシアにおける柔道人口の広がり、どのように役立ったとお考えですか？

ラフリン氏

テニスはリッチな人々のスポーツですが、柔道は誰にでもできるスポーツです。実際、富裕層における柔道人口は、少ないのではないかと思います。テニスが盛んになった背景には、その良さを理解し広めようとする指導者がいました。柔道の場合はそういう

た人材に恵まれません。大統領は素晴らしい人でしたが、当時の柔道界のリーダーは、それほどでもなかったということでしょう。率直に申しますと、柔道に関する問題を、ロシアでは今、金銭的に解決しようとしていません。

小林氏

三年前ラフリン先生は私の質問に、「現時点でプーチン氏を大統領としての評価するのは、時期尚早だ。指導者に対する評価は、ある程度時間が経ってからでないとできないものだ」とお答えくださいました。八年に及ぶプーチン氏の仕事を、現時点でラフリン先生はどのように評価なさいますか？

ラフリン氏

私は広大なロシアの、様々な土地を訪れています。これだけ大きな国ですから、すべての国民の暮らしを豊かするのは、大変難しいことです。モスクワとペテルブルグだけがロシアではなく、サハリンやレニングラードやコーカサスなども含め、その暮らしはそれぞれ異なります。しかし、誰もが私に「大統領の健康と成功を祈っていますとお伝えください」と言います。それは、キリスト教徒であろうとイスラム教徒であろうと同じです。国民の中

中には満足していない人もいますでしょう。しかし、これが答えです。

今、アフガニスタンにもイラクにも、ロシアは軍隊を派遣していません。チエチエンに居るのは、善いことを成すためです。私は、ロシアのなかでも非常に危険な地域である（チエチエンを含めた）コーカサス地方にも行ったことがありますが、東京にいるときと同じように散歩ができました。これも一つの答えだと思います。

司会

ありがとうございます。では次の方、お願いいたします。

B氏

柔道をお始めになったきっかけをお話していただきたいと思います。ソ連邦の時代、柔道はマイナーなスポーツだったのでないでしょうか。

ラフリン氏

今から約五十五年前、私はサンボというロシアの国技をしていました。コーチを務めたこともあります。柔道との出会いは、私のごく近い友人であるバガリウホフ氏がきっかけです。彼は、一九六四年の東京オリンピックの銅メダルリストです。

いつしか私は、畳の上で自由に練り

出される高度な技の数々に魅了され、サンボよりも柔道を選んだのでした。私が柔道を始めた頃は誰もが美しい一本で決める柔道をしていて、効果をとるための技などは存在しない時代でした。

一九七八年に、山下泰裕先生がトベルシイで試合をしたことを思い出しました。一回戦は投げ技で勝ち、その次は関節技、次は押さえ込み、次が絞め技でした。山下先生の柔道は、柔道の道を歩んで行こうとする私の決心を、さらに強固なものにしました。

司会

ありがとうございます。では次の方、お願いいたします。

向井氏

講道館の向井と申します。講道館では十数年前まで子どもたちに対外試合を禁じ、その中で正しい柔道を教えるようになっていきましたが、私が勤めるようになってからは、試合に出すようになりました。

最初にもありました。柔道には競技柔道と教育柔道のふたつが存在するのが現状です。しかし一指導者として、このように分けて教えるのは非常に難しいことだと考えます。講道館では、第一段階の稽古で基本的なことを教え

第二段階の稽古で勝負に勝てるような厳しい柔道を教えるようにしています。昨日ラフリン先生には、講道館の少年の部の柔道を見ていただきましたが、実際にこのような稽古をご覧になって、どのような感想をお持ちになりましたか？

ラフリン氏

家を建てるのと同様に、柔道の練習においても重要なのは基礎です。稽古の前半で基礎を学び、後半で乱取りなど、実践的なことを学ぶ。短い時間でしたが、興味深く見学させていただきました。

日本の美しい柔道に比べ、ロシアのそれは不十分です。指導者の差が出ているのでしょうか。私たちの課題は「指導者の指導」です。能力の高い選手はいます。ノービコフ選手やソルドーフイン選手もそうであり、彼らは世界選手権やオリンピックチャンピオンになることができました。必要なのは教育のシステムであり、来日の目的も、そこにあります。日本の教育システムが失われるようなことがあれば、柔道の未来に悲劇が起こるでしょう。講道館杯で、少し気になることがあります。男女共に、寝技が全くありませんでした。柏崎先生は、どこに行ってしまったのでしょうか？例え

ば、スライディングをして入る肩車のような技が目につきました。こういった汚い技を評価するのは間違った風潮であり、不要なことです。今後このような方針で、共に活動していきたいというのが私の考えです。

司会

さて、そろそろ時間ですので、最後は山下泰裕先生からご質問をお受けしたいと思います。

山下泰裕氏

ではまず、柔道を始めた頃のプーチン大統領は、どんな選手であったのかを、詳しくお伺いしたいと思います。大統領は柔道家として、日本の文化に大変興味を持っておられるそうですね。また、指導者であるラフリン先生から、多大な影響を受けているのではないのでしょうか？

ラフリン氏

初めて道場に来たときの彼は、他の子と変わったところもなく、特に私目を引く存在ではありませんでした。他のコーチたちも同様だったと思います。しかし、稽古を始めてみると、練習好きな努力家で、誰よりも上達が早いことがわかりました。休憩なしに、忍耐強く稽古をしていた姿を覚えています。技に関しては、左右の技を同じ

ように繰り返すことができず、かけられたときの反応もよかったですね。彼は、柔道のこのような資質が、大統領として非常に役立っていると話していました。その資質において、山下さんと大統領は、共通する点が多いのではないかと思います。私の話だけでは至らない部分があるかもしれませんが、ここで山下先生の大統領に対する印象を少しお話し頂いてはいかがでしょうか？

山下泰裕氏

その点については後ほど、交流会で詳しくお話しさせていただきますと存じますが、プーチン大統領は単に好きだというだけではなく、柔道の精神をよく理解し、それを日常生活や公務にも活かしていらつしやるのではないかと思います。ラフリン先生は、プーチン大統領にどのような将来性を見出し、精神面においていかなる指導を実践してこられたのでしょうか？

ラフリン氏

私はプーチン氏を大統領としてではなく、一人の人間、一人の柔道家として育てました。「どのように子どもを育てればいいか」は、「どのように大統領を育てればいいか」と同じように、私

にはわかりません。重要なのは、自分が手本になることです。指導者に誠実さと責任感あれば、弟子もそうなるはずです。ですから私はブッシュ大統領を指導するべきだったかもしれないですね。ただ、お酒に関してプーチン大統領には、私を見習わないよう「飲むな」と言っていますし、タバコについては「私が代わりに吸っておくよ」と言っています。

指導者は善き道を示すべきです。悪いことは他ならぬ、彼の人生が教えてくれるでしょう。柔道においては、正統的な道を選び、日々経験を積むことが大切です。

司会

ありがとうございます。日本の首相も柔道を学ぶべきだったかもしれない、そんなことを考えさせられる、貴重なお話でした。

プログラムは交流会へと続きますので、ラフリン先生を始め、来日いただいているロシアの指導者のみなさんと、さらなる親交を深めていきたいと存じます。また、本日皆様よりいただいた会費は、NPO柔道教育ソリダリティーの海外での柔道普及に使用させていただきます。

遅ればせながら本日の司会は、NPO柔道教育ソリダリティーの副理事長

を務めさせていただいております、東海大学の橋本が担当いたしました。最後までおつき合いました。誠にありがとうございます。